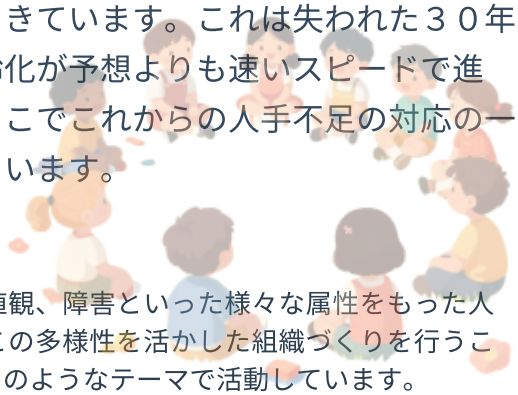
栃木県中小企業家同友会

ダイバーシティ委員会の活動と委員の募集

会員の皆さんは中小企業の経営者として、人手不足をどの程度感じていますか？
今後５年先、１０年先の社員確保の状況をどのくらい意識していますか？

厚労省の労働経済動向調査によると、２０１４年から完全失業率を有効求人倍率が上回り人手不足になっていて、２０１９年からは正社員の不足状況が顕著になってきています。これは失われた３０年から徐々に景気回復が進んで来たことにもよりますが、少子高齢化が予想よりも速いスピードで進み、労働者人口が減少していることが直接の原因のようです。そこでこれからの人手不足の対応の一つとしてダイバーシティ就労のテーマが徐々に話題になってきています。



１．ダイバーシティ委員会の活動

ダイバーシティとは「多様性」を意味する言葉で、人種や性別、宗教、価値観、障害といった様々な属性をもった人達が、組織の中で共存している状態のことです。ビジネスとの関係では、この多様性を活かした組織づくりを行うことで、組織の成長や競争優位性を図ることです。ダイバーシティ委 員会はこのようなテーマで活動しています。

２．働きたいのに働くことに困難を抱えている人たち

次のような方々が仕事を求めています。非就労障害者、高齢者、難病患者、糖尿病患者、がん患者・HIVエイズ患者、高次脳機能障害者、若年性認知症患者、ギャンブル依存症、薬物依存症、アルコール依存症、LGBTQ、児童養護施設退所者、刑務所等出所者、ニート・不本意フリーター、就 職氷河期世代、ひきこもり、ホームレス、ネットカフェ難民、貧困一人親家庭、生活保護世帯、そして外国人です。

（労働力人口の約４%、２７０万人が就労困難者）

３．就労困難者にとっての「働くこと」の意味

働きたいけど働くことが難しい方にとっての「働くこと」は多様です。

①**自立**：収入を得る、自分の力で生活を支える
②**社会との関わり**：社会とつながる、社会の役に立つ、社会を支える。
③**自己肯定**：自分の力で何かを生み出す、自信を持つ、感謝される。
④**成長**：働くこと、目標・課題があることで成長する
⑤**健康**：生活リズムと適度な緊張感で体と心の健康を保つ

４．今年度のダイバーシティ委員会の活動計画

ずばり外国人労働者です。コンビニや量販店、高齢者施設や農業分野でも多くの外国人が働いています。すでに外国人 労働者を受け入れている企業から多くを学ぶセミナーを企画して、いまから課題を意識しておきたいと思います。

ダイバーシティ委員会の委員の募集

中小企業の働き手として、マイノリティ（社会的少数者）の活用を積極的に考えて、
先発企業に学ぶ活動を一緒に行う委員を求めています。是非手を挙げて頂ける会員を待っています。

希望の方は事務局までご連絡ください

栃木県中小企業家同友会　事務局　📞028-612-3826　📠　028-612-3827

[文責：認定 NPO 法人ﾁｬﾚﾝｼﾞﾄﾞ・コミュニティ理事長 (ダイバーシティ委員会 委員長 金井 光一)]